



学校だより

彩雲燦燦



中学生の皆さんにとって日本の伝統芸能あるいは伝統音楽といったら、何を思い浮かべますか？日本の三大伝統芸能は、「能楽(のうがく)」「文楽(ぶんらく)」「歌舞伎(かぶき)」と言われることが多いです。どれも魅力あふれるものですが、その中でも一番華やかなものが「歌舞伎」だと思います。歌舞伎は、中学校の音楽の授業で「勸進帳(かんじんちょう)」が取り上げられたり、テレビなどのメディアでも話題になったり

することが多いので「見たことがある」「知っている」「覚えていて」という人も多いのではないのでしょうか。特に今年は歌舞伎の世界を描いた映画「国宝」が大ヒット。世界中の映画祭でも高い評価を受けるとともに、観客動員数1700万人を超え、映画をきっかけに歌舞伎のファンも増えたようです。また、演奏家にとっては憧れの場所の一つであるアメリカの「音楽の殿堂」と呼ばれるカーネギーホールでも、箏や尺八の演奏や歌舞伎と能楽のコラボレーションなどが披露され、近年日本の伝統芸能が大きな話題にもなっています。何百年あるいは、千年以上もの間、受け継がれている伝統芸能や伝統音楽。それにはどんな価値があるのか。歴史が長ければ、それだけ多くの人たちの英知が時間をかけて結集されて現在の姿になっているはず。自分のルーツを知り、そのことに誇りをもって進んでいく。新しいものをつくるとしても、伝統を理解したうえで積み重ねていかなければよりよいものは生まれないと思うのです。太宰府西中にも40年という歴史があります。伝統があります。大切なことを引き継ぎながらも「どうしたらもっとよくなるのか」をみんなで懸命に考えて創ってきています。一人ひとりの力は小さくとも「みんなで」「つながって」積み重ねてきました。第41期の生徒会活動が本格的に始動しています。次年度に向けての準備もスタートしています。今年も残すところ1か月余りとなりました。今年を少しずつ振り返ってみましょう。次に向かう指針やヒントがきっと見えてきます。

地域の一員として私たちにできることを考えたい！

11月11日(火)に太宰府西中学校の校区にある9つの自治会ごとに分かれて「まほろば活動」を行いました。学校では、避難訓練や不審者対応教室等を実施して、何か起こった時の対応をみんなで考えたり、どう行動すればよいかを模擬体験したりしていますが、自分が住んでいる場所でも中学生としてできることを地域の皆様とともに学ぶことは、さらなる防災意識の高まりにつながるはずです。また、地域のことを知ることで、自分の住んでいる場所を「私のまち」という思いが大きくなり、「誰かのために役に立ちたい」という気持ちが幸せの輪を広げることだと思います。地域の皆様の温かなまなざしやお声かけが、まちがいなく安心感や支えにつながっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



「つながろう太西星 つなげよう思いやりの輪」で盛り上がった樟蔭オリンピックでした



11月3日(月)にPTA主催の「樟蔭オリンピック」が盛大に行われました。各学級の班をチームとして、校舎内のあちこちに隠されているクイズを探し出し答えたり、ミッションを託された先生方と触れ合ったりしました。また、ドラマや情報番組などで大活躍のだざいふ応援大使でもある福田愛依(ふくだめい)さんから、たくさんの笑顔とパワーあふれる言葉をもらい、素敵な時間をもつことができました。PTAの皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。